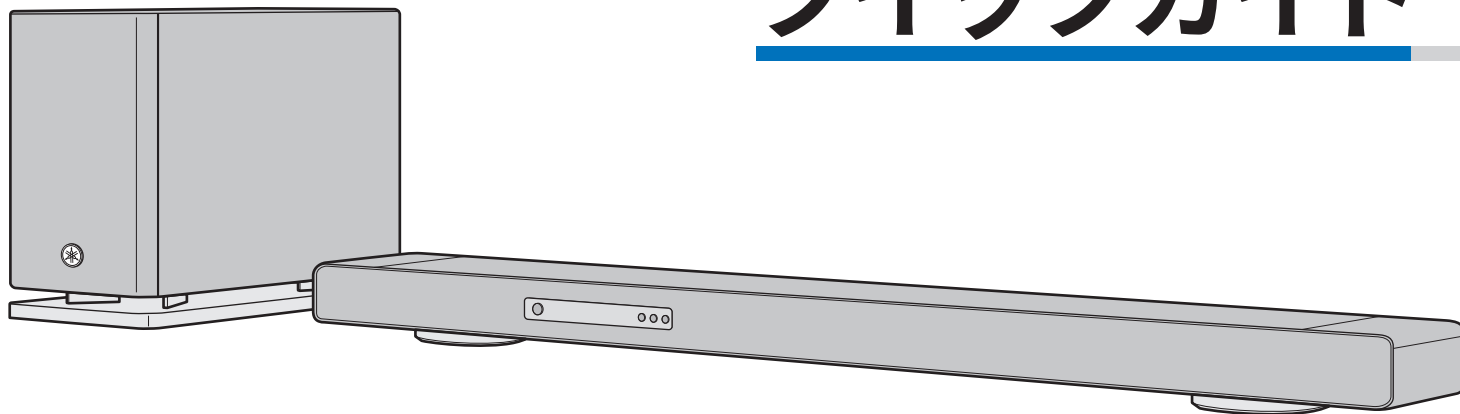




# クイックガイド



サウンドバー

# SR-X90A

保証書別添付

JA

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品はテレビや AV 機器に接続して使用するサブウーファー付きバー型スピーカーです。

臨場感豊かなサラウンド再生や、ネットワークを利用した幅広いコンテンツ再生などをお楽しみいただけます。

- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。
- 「お問い合わせ窓口」、「保証とアフターサービス」は本書の 20 ページをご覧ください。
- 本書をお読みにになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

## クイックガイド (本書)

製品をお使いになる前に、本書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。

製品を正しく安全にお使いいただくためにお守りいただきたいこと、注意事項、お手入れ方法などを記載しています。

- 安全上のご注意 (3 ページ)

本書では、主に接続した機器の音声を楽しむまでの手順を説明します。

- 最初に確認する (10 ページ)
- 1 設置する (11 ページ)
- 2 接続する (12 ページ)
- 3 電源に接続してサウンドバーをオンにする (14 ページ)
- 4 MusicCast ネットワークに登録する (16 ページ)
- 5 音声をサウンドバーで聴く (17 ページ)
- 追加情報 (19 ページ)

## ユーザーガイド

より詳しい情報を掲載しています。

[https://manual.yamaha.com/audio/sound\\_bar/sr-x90a/](https://manual.yamaha.com/audio/sound_bar/sr-x90a/)



# 安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

## ■ 必ずお守りください

ここに示した注意事項は、機器を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ■ 「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさや切迫の程度を区分して掲載しています。

## ■ 記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号



- 点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- 不適切な使用や改造によりお客さまがけがをしたり機器が故障したりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 本製品は一般家庭向けです。生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される用途に使用しないでください。



## 警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

## 異常に気付いたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 電源コード / プラグが傷んだ場合
- 機器から異臭、異音や煙が出た場合
- 機器の内部に異物や水が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 機器に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

## 電源



禁止

電源コードが破損するようなことをしない。

- ストーブなどの熱器具に近づけない
- 無理に曲げたり、加工しない
- 傷つけない
- 重いものをのせない

芯線がむき出しのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



禁止

落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らない。

感電の原因になります。



必ず実行

電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。

誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行

電源コードは、必ず付属のものを使用する。火災、やけど、または故障の原因になります。



禁止

付属の電源コードをほかの機器に使用しない。火災、やけど、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的を確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

火災または感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



必ず実行

長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

## 設置



必ず実行

ユーザーガイドで指示された方法で設置する。  
落下や転倒して、けがや破損の原因になります。



必ず実行

設置後は必ず安全性を確認する。定期的に安全点検を実施する。  
落下や転倒して、けがをする可能性があります。

## 分解禁止



禁止

この機器を分解したり改造したりしない。  
火災、感電、けが、または故障の原因になります。

## 水に注意



禁止

- 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかるところで使用しない。
- この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。  
内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。また、ぬれた手でこの機器を扱わない。  
感電や故障の原因になります。

## 火に注意



禁止

この機器の近くで、火気を使用しない。  
火災の原因になります。

## 取り扱い



禁止

この機器を落としたり、強い衝撃を与えたりしない。  
感電や火災、または故障のおそれがあります。

## リモコンの電池



禁止

電池を分解しない。  
火災、発熱、破裂、爆発、液漏れのおそれがあります。  
電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、失明や化学やけどなどのおそれがあります。



禁止

- 電池を火の中に入れない。
- 電池を下記の場所に置かない。
  - 直射日光のあたる場所（日中の車内など）
  - や火の近くなど極端に温度が高くなる場所
  - 温度や気圧が極端に低い場所
  - ほこりや湿気の多い場所

破裂により、火災やけがの原因になります。



禁止

使い切りタイプの電池は充電しない。  
充電すると破裂や液漏れの原因になり、失明や化学やけど、けがなどのおそれがあります。



禁止

電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。  
失明や化学やけどなどのおそれがあります。  
万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

## ワイヤレス機器として



禁止

医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使用しない。  
この機器が発する電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。



禁止

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から 15 cm 以内で使用しない。  
この機器が発する電波により、ペースメーカーや除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。



## 注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

## 電源



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。

火災、感電、やけどの原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。

## 設置



不安定な場所や振動する場所に置かない。

この機器が落下や転倒して、けがや故障の原因になります。



この機器を設置する際は、放熱を妨げない。

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたんやカーペットなどの上には設置しない。
- 指定以外の方法でこの機器を設置しない。
- 風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

機器内部に熱がこもり、火災や故障、誤動作の原因になります。サウンドバーの周囲に上 10 cm、左右 10 cm、背面 10 cm（壁掛けの場合は底面 10 cm）以上のスペースを確保してください。

サブウーファーの周囲に上 10 cm、左右 10 cm、背面 10 cm 以上のスペースを確保してください。



塩害や腐食性ガスが発生する場所、油煙や湯気の多い場所に設置しない。

故障の原因になります。



地震など災害が発生した場合はこの機器に近づかない。

この機器が転倒または落下して、けがの原因になります。



この機器を持ち運びする場合は、必ず 2 人以上で行う。

この機器を 1 人で無理に持ち上げると、腰を傷めるおそれがあります。また、この機器が落下してけがや破損の原因になります。



この機器を移動する前に、必ず電源スイッチを切り、接続ケーブルをすべて外す。

ケーブルを傷めたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



この機器を壁に取り付ける場合は、必ずお買い上げの販売店または専門の施工会社に依頼する。

この機器が落下して、けがや破損の原因になります。工事には、技術と経験が必要です。

## 聴覚障害



大きな音量で長時間この機器を使用しない。

聴覚障害の原因になります。異常を感じた場合は、医師にご相談ください。



ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。

## お手入れ



お手入れをする前に、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になることがあります。

## 取り扱い



サブウーファーのバスレフポート（底面の穴）から金属や紙片などの異物を入れない。（6ページの図1を参照）

火災、感電、または故障の原因になります。



小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



以下のことをしない。

- この機器の上に乗る。
- この機器の上に重いものを載せる。
- この機器を重ねて置く。
- ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加える。
- この機器にぶら下がる。
- この機器に寄りかかる。

けがをしたり、この機器が破損したりする原因になります。

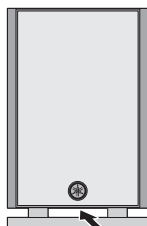


接続されたケーブルを引っ張らない。

接続されたケーブルを引っ張ると、機器が転倒して破損したり、けがをしたりする原因になります。

図1

サブウーファー



バスレフポート

## リモコンの電池



指定以外の電池を使用しない。

火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液漏れにより、火災やけがの原因になります。



電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。

新しいものと古いものを一緒に使用すると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



種類の異なる電池を一緒に使用しない。

アルカリとマンガンと一緒に使用したり、メーカーまたは品番の異なる電池と一緒に使用したりすると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



電池は乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。



必ず実行

電池はすべて+ / -の極性表示どおりに正しく入れる。

正しく入れていない場合、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



必ず実行

長時間使用しない場合や電池を使い切った場合は、電池をリモコンから抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、炎症やリモコンの損傷の原因になります。



必ず実行

電池を保管する場合および廃棄する場合には、テープなどで端子部を絶縁する。

他の電池や金属製のものと混ぜると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。

## ご注意

製品の故障、損傷や誤動作を防ぐため、お守りいただく内容です。

### 電源

- 本製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源ボタンで本機をオフ（スタンバイ）状態にしても微電流が流れています。

### 設置

- 直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 無線機能を使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線ネットワーク機器の近くへの設置を避けてください。  
遮蔽物があると通信可能距離が短くなる場合があります。

### 接続

- この機器をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者（移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど）の通信回線（公衆無線 LAN を含む）には直接接続しないでください。
- 外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。  
説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。

- 業務用機器とは接続しないでください。  
本製品は一般家庭用の機器と接続する目的で設計されています。業務用機器に接続すると、故障の原因となります。

### 取り扱い

- この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色 / 変質する原因になります。
- 機器の周囲温度が極端に変化して（機器の移動時や急激な冷暖房下など）、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。

### 無線機能の取り扱い

- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
  - この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
  - 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

### お手入れ

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になります。

### スピーカー

- スピーカーユニットには触れないようにしてください。スピーカーユニットが破損する原因になります。

### 廃棄と譲渡

- この機器を譲渡・廃棄する際は、本製品の設定内容を初期化してください。設定内容を初期化せずに譲渡・廃棄すると、第三者に個人情報漏洩の原因になります。
- 使用済みの電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄してください。
- 本製品を譲渡する際は、本書と付属品も合わせて譲渡してください。
- 本製品および付属品を廃棄する際は、各自治体の廃棄処分方法に従ってください。

# お知らせ

## 製品に搭載されている機能について

- ・ バスレフポート（6 ページの図 1 を参照） から空気が吹き出す場合がありますが、この機器の故障ではありません。特に、低音成分の多い音を出力する場合に起こります。
- ・ この製品は、日本国内専用です。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

## 無線機能について

### (Wi-Fi)

#### 2.4 DS/OF 4

「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「DS/OF」：変調方式は DS-SS および OFDM 方式

「4」：想定干渉距離が 40 m 以内

■■■■ ■■■■ ■■■■：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

### (Bluetooth)

#### 2.4 FH 4

「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「FH」：変調方式は周波数ホッピング（FH-SS 方式）

「4」：想定干渉距離が 40 m 以内

■■■■ ■■■■ ■■■■：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

### (サウンドバーとサブウーファー間の通信)

#### 2.4 XX 8

「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「XX」：変調方式はその他の方式

「8」：想定干渉距離が 80 m 以内

■■■■ ■■■■ ■■■■：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

### (5GHz 帯周波数範囲と対応チャンネル)

5.2 GHz 帯（W52）：

5180 ～ 5240 MHz（36 ch、40 ch、44 ch、48 ch）

5.3 GHz 帯（W53）：

5260 ～ 5320 MHz（52 ch、56 ch、60 ch、64 ch）

5.6 GHz 帯（W56）：

5500 ～ 5700 MHz（100 ch、104 ch、108 ch、112 ch、116 ch、120 ch、124 ch、128 ch、132 ch、136 ch、140 ch）

- ・ 5.2 GHz 帯（W52）と 5.3 GHz 帯（W53）は、電波法により屋内での使用に限られています。

## 銘板について

- ・ サウンドバー

機種名（品番）、製造番号（シリアルナンバー）、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(1003-M06 plate bottom ja 01)





# 最初に確認する

## 箱の中身を確認する

本製品の製品本体と付属品は次のとおりです。箱から取り出したあと、すべてのものが揃っていることを確認してください。

### ■ 製品本体



サウンドバー (SR-CUX90A)



サブウーファー (SR-WSWX90A)

### ■ 付属品



リモコン



単 4 乾電池 (2 本)



電源コード (2 本)

サウンドバーを壁に設置するときに使います。

- ・ 取付金具 (2 個)
- ・ ワッシャー (2 個)



クイックガイド (本書)  
保証書

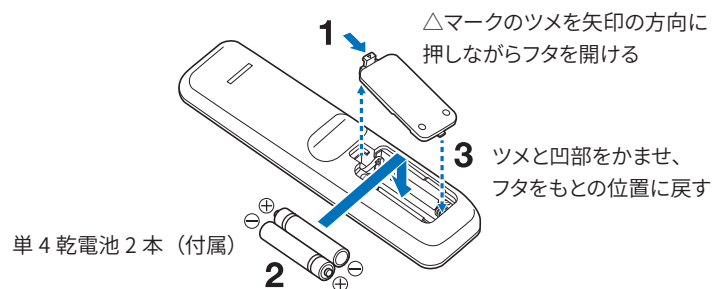
### お知らせ

HDMI ケーブルは付属していません。本製品の接続に HDMI ケーブルをお使いになる場合は、市販の HDMI ケーブルをご用意ください。

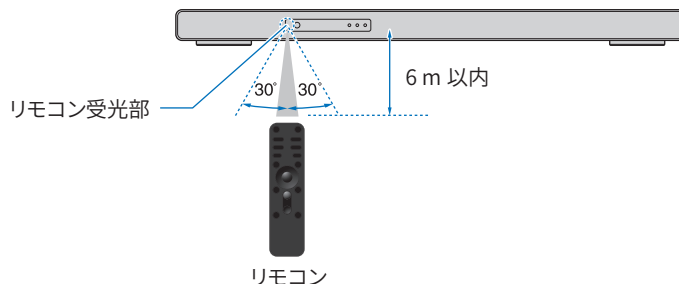
## リモコンを準備する

電池を入れる前やリモコンを使う前に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みください。

### ■ 電池を入れる



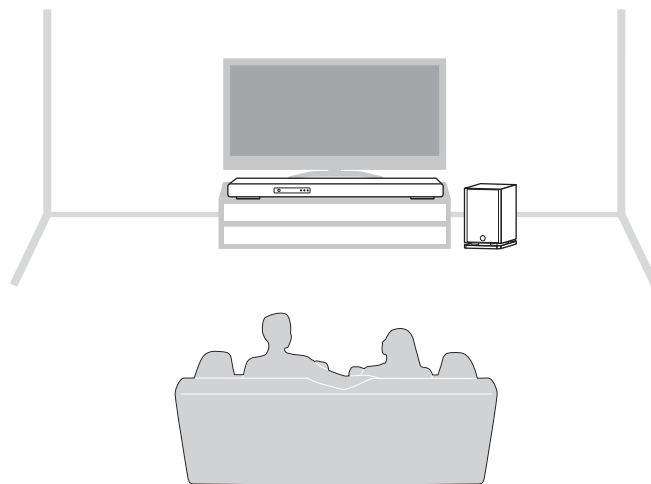
### ■ リモコンの操作範囲



## 1

# 設置する

次の図のようにサウンドバーとサブウーファーを設置します。サブウーファーはサウンドバーの外側に設置します。音が壁に反射するのを防ぐため、サブウーファーの正面を少し内側に向けてください。

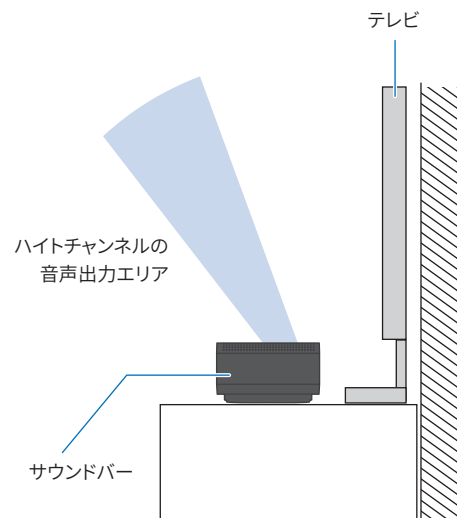


## お知らせ

視聴位置となるソファなどがサウンドバーの正面になるように配置してください。

## ご注意

サウンドバーの上面には、ハイトチャンネルの音声を出力するハイトスピーカーが搭載されています。ハイトスピーカーから天井方向に音声が出力されるので、サウンドバーの上面に十分なスペースを空けてください。それにより、最適なサラウンド音場を得られます。



## お知らせ

サウンドバーを壁に取り付けることもできます。安全な取り付けのため、施工はお買い上げの販売店または施工の専門事業者に依頼してください。詳しくは、次のウェブサイトをご覧ください。

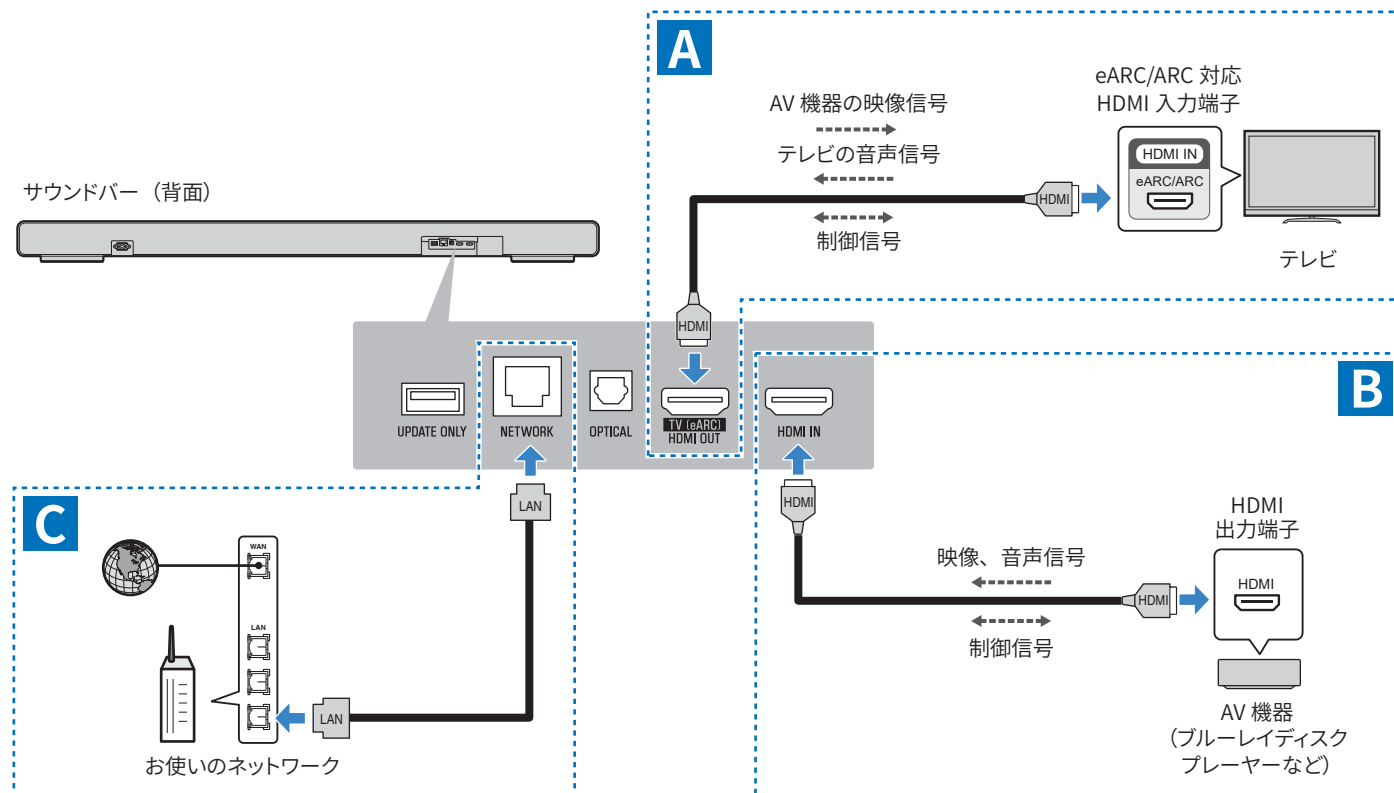
[https://manual.yamaha.com/audio/sound\\_bar/wallmount/sr-x90a/](https://manual.yamaha.com/audio/sound_bar/wallmount/sr-x90a/)

## 2

## 接続する

サウンドバーと、テレビや AV 機器を下図 **A**、**B** のように接続します。

また、サウンドバーをネットワークに有線接続する場合は、下図 **C** のように接続します。



## A テレビと接続する

HDMI ケーブル（市販）を使って、サウンドバーをテレビの ARC（オーディオリターンチャンネル）対応の HDMI 入力端子（「eARC」や「ARC」の表示がある端子）に接続します。

### テレビの HDMI 入力端子が eARC/ARC 非対応（HDMI 端子に「eARC」や「ARC」の表示がない）の場合

HDMI ケーブルと光デジタルケーブルを使ってサウンドバーとテレビを接続します。詳しくは、ユーザーガイドをご覧ください。

#### お知らせ

テレビの eARC/ARC 対応の HDMI 入力端子からサウンドバーに入力した音声のうち、サウンドバーで再生できる音声フォーマットについては、ユーザーガイドをご覧ください。

#### HDMI ケーブルについて

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。
- 信号の劣化を防ぐため、なるべく短い HDMI ケーブルをお使いください。
- eARC/ARC 対応の HDMI 端子に接続する場合は、イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブルなど、eARC/ARC に対応した HDMI ケーブルをお使いください。
- 3D 映像、4K Ultra HD 映像をお楽しみになる場合は、プレミアムハイスピード HDMI ケーブルまたはイーサネット対応プレミアムハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。

## B AV 機器と接続する

HDMI ケーブル（市販）を使って、サウンドバーを AV 機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）の HDMI 出力端子に接続します。

AV 機器の音声と映像信号はサウンドバーに伝送され、音声をサウンドバーで再生できます。

映像信号はサウンドバーとテレビを接続した HDMI ケーブルにより、サウンドバーからテレビに伝送されます。

#### お知らせ

AV 機器の音声をサウンドバーで再生するには、次のような接続方法もあります。AV 機器の台数や、どの機器で入力操作をするかなどの目的に応じて接続方法を選んでください。

- AV 機器（HDMI 出力端子）をテレビ（HDMI 入力端子）に接続する
- AV 機器（HDMI 出力端子）を、サウンドバー（HDMI IN 端子）やテレビ（HDMI 入力端子）にそれぞれ接続する

詳しくは、ユーザーガイドをご覧ください。

## C ネットワークに接続する（有線接続する場合）

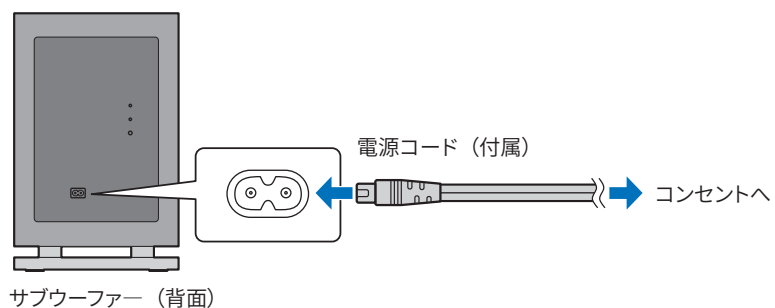
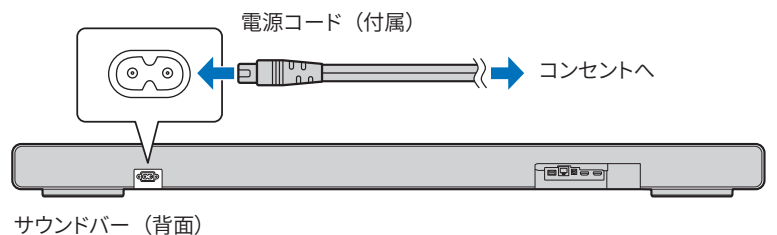
LAN ケーブル（市販の CAT-5 以上の STP ストレートケーブル）を使って、サウンドバーをルーターに接続します。

## 3

# 電源に接続してサウンドバーをオンにする

## 電源に接続する

すべての機器のケーブル接続が終わったら、付属の電源コードを使ってサウンドバーとサブウーファーをコンセントに接続してください。



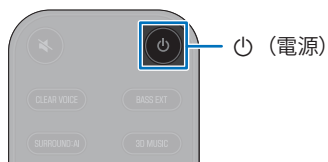
## 電源をオンにする

本製品の電源をオンにします。

### 1 テレビの電源をオンにする。

### 2 リモコンの (電源) キーを押す。


サウンドバーの電源をオンにすると、サブウーファーと自動的に無線接続され、フロントディスプレイに設定状態に応じた内容が表示されます。

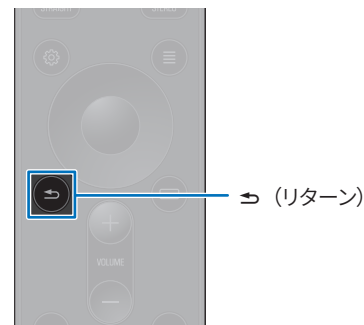
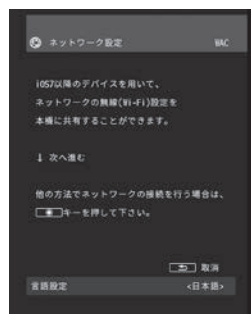


### 3 テレビの入力でサウンドバーを選択する。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

LAN ケーブルを接続していない場合は、テレビ画面に次のようなネットワーク設定に関するメッセージが表示されます。

ここでは、サウンドバーのリモコンの  (リターン) キーを押していったんキャンセルしてください。




### 4 サブウーファーの接続を確認する。

サブウーファーの接続状態は、フロントディスプレイのアイコンで確認できます。



#### お知らせ

電源がオンになっているときに  (電源) キーを押すと、電源をオフにできます。電源をオフにすると、フロントディスプレイが消灯します。

## 4

# MusicCast ネットワークに登録する

サウンドバーでネットワークを利用した機能を使用するには、スマートフォンアプリ「MusicCast Controller」(無料)を使って、MusicCast ネットワークにサウンドバーに登録する必要があります。

登録すると、次の機能を使用できます。

・ストリーミングサービス    ・メディアサーバー (パソコン /NAS) の音楽ファイル再生    ・インターネットラジオ

登録と同時にサウンドバーの無線接続設定も行えます。無線接続する場合は、使用する無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の SSID とセキュリティキーをお手元に用意してください。

お使いになるスマートフォンがご家庭のルーターに接続されているか、確認してから次のように操作してください。

**1** スマートフォンアプリ「MusicCast Controller」を App Store または Google Play で検索し、スマートフォンにインストールする。

**2** スマートフォンで MusicCast Controller アプリを起動し、「設定する」をタップする。



**3** アプリの案内にしたがって、サウンドバー前面の INPUT/CONNECT ボタンを 5 秒以上押し続ける。



INPUT/CONNECT

**4** アプリの案内にしたがって、MusicCast ネットワークへの接続設定をする。

これで MusicCast ネットワークへの登録は完了です。

## MusicCast について

MusicCast ネットワークに MusicCast 対応機器を登録すると、複数の部屋に設置した MusicCast 対応機器で音楽を共有できます。スマートフォンアプリ「MusicCast Controller」により、簡単な操作で家庭内のどこにいても、スマートフォンやメディアサーバー (パソコン /NAS)、インターネットラジオ、ストリーミングサービスの音楽を楽しめます。

MusicCast の詳細と対応機器については、ヤマハのホームページをご覧ください。

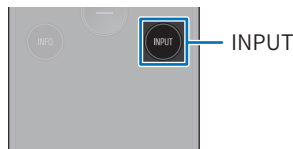


## 5

# 音声をサウンドバーで聴く

## テレビの音声を聴く

サウンドバーに接続したテレビを視聴し、サウンドバーからテレビの音声が出ているか確認してください。出ていない場合は、リモコンの INPUT キーを押して入力ソースを「TV」に切り替えてください。



### お知らせ

- お使いのテレビによっては、本ガイドの説明どおりに操作をしても、テレビの音声がサウンドバーから出ないことがあります。その場合は、サウンドバーの設定を変更する必要があります。詳しくは次の URL をご覧ください。  
[https://manual.yamaha.com/audio/sound\\_bar/sr-x90a/hdmicontrol.html](https://manual.yamaha.com/audio/sound_bar/sr-x90a/hdmicontrol.html)



- HDMI ケーブルでテレビとサウンドバーを接続している場合は、「HDMI コントロール機能」を「オン」にすることで、テレビのリモコンでサウンドバーのオン / オフや音量調節ができます。詳しくはユーザーガイドをご覧ください。
- テレビのスピーカーとサウンドバーの両方から音声が出ている場合は、テレビを消音してください。

## AV 機器の音声を聴く

サウンドバーの HDMI IN 端子に接続した AV 機器を再生し、リモコンの INPUT キーを押して入力ソースを「HDMI」に切り替えます。サウンドバーから AV 機器の音声が出ているか確認してください。

### お知らせ

AV 機器をサウンドバーの HDMI IN 端子に接続した場合、サウンドバーとテレビを接続した HDMI ケーブルにより、AV 機器の映像信号がテレビに伝送されます。

## ほかの入力ソースの音声を聴く

リモコンの INPUT キーを押して、ネットワーク入力や Bluetooth® 機器などほかの入力ソースに切り替えます。

### お知らせ

ネットワーク入力の種類（SERVER、NET RADIO など）を選択するには、スマートフォンアプリ「MusicCast Controller」を使う必要があります。

## お好みの音に調整する

サウンドバーはサラウンド再生用のサウンドモードとステレオ再生用のサウンドモードを搭載しています。また、サウンド設定を使ってさらにお好みのサウンドに近づけることができます。



### ① お好みのサウンドで再生する（サウンドモード）

サラウンド再生用のサウンドモードとステレオ再生用のサウンドモードから 1 つを選んでお楽しみいただけます。

#### **SURROUND:AI（初期設定）**

SURROUND:AI により、コンテンツの場面に応じて最適なサウンド効果を創り出します。

#### **3D MUSIC**

AURO-3D、Dolby Surround、Neural:X の中からお好みのサウンドデコーダーを選べます。各種サラウンドデコーダーの特長を活かしてサラウンド再生します。

#### **STRAIGHT**

音場効果をかけずに再生します。

#### **STEREO**

音場効果をかけずにステレオ再生します。

#### **お知らせ**

サウンドモードはフロントディスプレイに表示されます（初期設定）。サウンドモードが表示されていない場合は、リモコンの INFO キーを押すと現在選んでいるサウンドモードを表示できます。

### ② 特定の音域を強調する（サウンド設定）

#### **CLEAR VOICE（クリアボイス）**

クリアボイスをオンにすると、再生音の中の人の声が聴きやすくなります。小音量での再生時や、BGM や効果音が多く使われた映画やドラマなどにおすすめします。

CLEAR VOICE キーを押すたびにオン / オフが切り替わります。

#### **BASS EXT（バスエクステンション）**

バスエクステンションをオンにすると、低音部の音像が増強されます。サブウーファースの音量を抑えつつ低音を増強したいときや、低音楽器の響きを強調したいときにおすすめします。

BASS EXT キーを押すたびにオン / オフが切り替わります。

# 追加情報

## ファームウェア更新のお知らせ

機能の追加や不具合の改善のために新しいファームウェアが提供されると、次のようにファームウェアの更新をお知らせします。

### スマートフォンアプリ「MusicCast Controller」でのお知らせ

アプリ画面にファームウェア更新のお知らせが表示されます。アプリ画面の指示にしたがって、ファームウェアを更新してください。

### フロントディスプレイでのお知らせ

新しいファームウェアに更新する準備が完了すると、フロントディスプレイのファームウェア更新アイコンが点灯します。



ファームウェア更新アイコン

詳しくは、ユーザーガイドをご覧ください。

## 設定を変更する

サウンドバーの再生関連や機能の設定は、テレビ画面またはフロントディスプレイに表示されるメニューを見ながら変更できます。

テレビ画面には、次のようなメニューが表示されます。



詳しくは、ユーザーガイドをご覧ください。

## お問い合わせ窓口

### ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

#### ■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

フリーダイヤル  **0120-135-808**

携帯電話、IP電話からは **050-3852-4089**

受付：月～金曜日 10:00～17:00  
(祝日およびセンター指定の休日を除く)

ヤマハサポート・お問い合わせ  
<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハ楽器音響製品お客様サポート  
LINE 公式アカウント



### ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

#### ■修理ご相談センター

フリーダイヤル  **0120-149-808**

携帯電話、IP電話からは **050-3852-4106**

受付：月～金曜日 10:00～17:00  
(祝日およびセンター指定の休日を除く)

#### FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様  
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様  
(06) 6649-9340

#### 修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00  
(祝日およびセンター指定の休日を除く)

\*お電話は、修理ご相談センターでお受けします。

#### 東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1  
JMT京浜E棟A-5F  
FAX (03) 5762-2125

#### 西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪府浪速区難波中1丁目13-17  
ナンバ辻本ビル7F  
FAX (06) 6649-9340

\*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

## 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、または修理ご相談センターにご連絡ください。

#### ●保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

#### ●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

#### ●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

#### ●修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

#### ●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

#### ●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。  
※品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

#### ●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

#### ●摩耗部品の交換について

本機には使用年とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、または修理ご相談センターへご相談ください。

##### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

### 永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

#### こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町10-1







ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町10-1

Yamaha Global Site  
<https://www.yamaha.com/>

Yamaha Downloads  
<https://download.yamaha.com/>

© 2025 Yamaha Corporation  
2025 年 5 月発行  
KSEI-A0

VHP4570